

第三者意見



南山大学経営学部教授
安藤 史江氏

東京大学大学院修了。博士(経済学)。
専門は、組織学習論、組織変革論。
主要著書に『組織学習と組織内地図』
(2001)、『組織変革のレバレッジ』
(2017)など。

1998年に組織学会高宮賞(論文部門)、2018年に、公益社団法人全日本能率連盟主催の第69回全国能率大会にて、経済産業政策局長賞を受賞。
日本経営協会の参与等を務める。

多様なステークホルダーとの 関係性を重視したレポート

アニュアルレポートは、中部電力グループが社会の期待にどのように向き合い、応えようとしているか、その中長期の価値創造に向けた取り組みをステークホルダーに総合的かつわかりやすく報告するものです。

近年、電力・ガスの小売自由化など、エネルギー事業を取り巻く環境は大きく変化しています。そうした環境下では、長い歴史と強い企業ブランドを有する中部電力グループも、求められる使命の完遂と同時に、挑戦を恐れず、常に変革を志向する「攻め」の姿勢が不可欠です。

本レポートは、中部電力グループのそうした変革姿勢が前面に出る内容・構成になっています。たとえば、新たな経営ビジョンでは、新たなコミュニティづくりへの貢献が打ち出され、能動的かつ意欲的に社会に関わることへの期待を感じさせます。また、誌面も一新され、これまでの堅実で真面目という企業イメージから脱却し、「自分たちをわかってもらう」ということを重視して、写真やイラストを活用した親しみやすく明るいヴィジュアルに仕上げています。さらには、多様な読み手を意識し、最近の環境変化にあまり詳しくないステークホルダーにも理解しやすいように、多くの方々に知ってほしい、もしくは、重要と位置づけられる用語や内容については、新たにQ&A方式を採用して解説を試みています。

組織変革の第一歩は「外」を意識することです。そして、その多様な価値観と向き合い、守るべき点は守りつつも、取り入れるべき点は積極的かつ柔軟に取り入れる姿勢を持つことでもあります。その点、このレポートからは、そうした柔軟性、日々変革を志向する姿勢が感じ取れ、好感が持てます。実際、外部からの多様な意見や価値観を吸収しようとするだけでなく、社内でもダイバーシティを意識した取り組みを行い、多様なステークホルダーが何を求めているか、自分たちに何を期待しているかを積極的に探り出し、実現しようとしています。

今後も中部電力グループではビジョンの実現にあたって、次々とこれまでの殻を破りうる、新たな挑戦を続けていくことが予想されます。本レポートを作成する際に強く意識した、多様なステークホルダーとの関係性を大切にしようとする姿勢や心構えは、あらゆる活動の基盤となることで、より一層の望ましい効果を引き出す役割を果たしうると期待します。

第三者意見を受けて

貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございます。

今回のレポートに対して、変革が伝わるストーリー展開、多様な読者を意識した親しみやすく・わかりやすい誌面への工夫など、高く評価いただきました。また、当社グループには、社内外のステークホルダーの意見や価値観を取り込み、活かす姿勢があり、今後もその姿勢を大切にすることで、より望ましい成果が期待できるという、将来に向け大きな励みとなる方向性を示していただき、深く感謝いたします。

エネルギーを取り巻く事業環境は大きく変化しておりますが、今後とも、多様なニーズに応え、社会の持続的な成長に貢献してまいります。



中部電力株式会社
コーポレート本部 部長
兼 グループ経営推進室長

加藤 泰孝